

静岡松涛タイムス 第61号

発行元：静岡県本部広報部 責任者：滝田宏平

連絡先：0547-36-1238(TEL) 0547-36-1293(FAX)

E-mail：kouheichan@tiara.ocn.ne.jp

URL： <http://www.shizuoka-karate.com/> (公式 HP)

<http://plaza.across.or.jp/~cyber-ex/> (広報部)

平成 25 年 年頭所感 【新年を迎えて】



新年明けましておめでとうございます。また新しい年が巡ってきました。本当に月日の経つのは早いもので、一年が瞬く間に過ぎてしまいました。今年はどんな年になるか、皆様にとって実りある良い年でありますようお祈り申し上げます。2012年の重大ニュースは世界各国のトップを決める選挙の年になりました、3月のロシア大統領選ではプーチン氏が振り返り、5月のフランス大統領選ではオランダ氏がサルコジ氏を破り、11月にはアメリカ大統領選でオバマ大統領が再選を果たし、12月の韓国大統領選には朴槿恵氏が当選し、日本では民主党が敗れ、前政権党である自民党の圧勝で終わりました。

昨年は各支部指導の技術の向上、型指導において基本的な意味に違いがないように指導者の講習会を重ねるとともに、車椅子の型の講習会も行い多数の参加のもと初輪・式輪の型を習得してもらいました。今年も引き続き講習会を行います。又昨年は2名の常任理事が支部発展・技術の向上に情熱を注ぐあまり、自身を見失い、松涛連盟の規約を忘れ、人に迷惑かけた事は如何な事かと思えます。指導者は節度をわきまえる事が大切です。「修行につぐ修行の努力の後にはさらなる努力練磨が待ち受けている。このことは空手道人の〔おごり〕〔たかぶり〕を戒めているものである」(鳴門風雲空手道、高木正朝先生書より) 2名とも役職は更迭で1名は警告処分、もう1名は1年間の謹慎処分としたが11月25日付けの脱退届の基、退会致しました。残念です。このような不祥事が再発しない様、松涛5条訓、20箇条を見直ししましょう。継続は力なり、何事にも修行には忍耐と素直な心、更に前へ進む気構えが必要です。修練の積み重ねが技の上達、辛くても続ける心を育て、新たに先を目指す心を強め、皆様と共に精進して目標に向かって行きましょう。今年も昨年同様、会員拡大(車椅子空手)、技術の向上、礼節、人を思いやる心を目標に掲げ皆様と共に頑張っていく所存であります。皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます、新年の御挨拶とさせていただきます。(静岡県本部長 稲毛 隆)

第4回龍勢空手道大会



平成 24 年 11 月 25 日(日)に岡部小学校体育館において、第4回龍勢空手道大会が開催されました。大会参加支部は、大井川支部・島田支部・西焼津支部・藤枝青島支部・瀬戸谷支部・藤枝高洲支部・焼津将陽館支部・焼津支部・岡部支部と9支部になり、志太地区の多くの支部に参加して頂きました。本大会は、試合経験の浅い選手の底上げと、若手指導者の審判の育成の為の大会として毎年開催しています。私も選手と同様に、汗を流す覚悟で試合に臨みました。各支部の先生方から指導を頂き、大変勉強になりました。さて試合内容は、基本・型・組手が行なわれましたが、基本試合では可愛らしい子供達の試合が行なわれ、型・組手では小さな大会とは思えないほどの、目を見張る試合が有りました。大きな大会では味わえない、勝つ喜びを知った子、初めての試合に頭が真っ白になった子、必ず勝つと心に誓いながらも涙を流す子、慣れない主審に嫌な汗が流れる若手指導者、選手と、審判と、コート係りなどの裏方と、会場に集まってくれた人達の数だけドラマが有ったと思えます。私も子供達も貴重な経験が出来た1日だったと思えます。試合以外には開会式後、各支部1名づつ、試割を会場の中央で父母の見守る中、大きな拍手と共に行なわれました。少しの失敗と、板を持った私の指に突き、蹴りが炸裂しましたが、楽しくできました。午後の演武では、沖縄古武術「サイ」の演武が行なわれ子供たちの歓声が上がりました。さて、当日は各道場の先生方及び、コート係等のサポートをいただきまして皆様には大変お世話になりました。この場をお借りしまして、心より感謝し御礼申し上げます。(レポート：岡部支部琉芳会 増田 公一)

平成 24 年度 12 月期昇段審査

平成 24 年 12 月 2 日実施

於 静岡市北部体育館

少年部初段	児玉 陽(高志館)	寺島 凧(藤 枝)	井上 日菜(藤 枝)	河村 修矢(藤 枝)
谷村 駆(島 田)	大房 友哉(高 洲)	菊地 太陽(浜将陽)	曾根 隼人(高 洲)	相馬 悠利(浜将陽)
末村 至隆(浜将陽)	早川 紗希(藤 枝)	曾根 大和(静岡北)	成瀬 圭介(島 田)	
一般部初段	飯島 茂夫(青 島)	小柳 東志(藤 枝)	宮島 直樹(島 田)	受審者総数 23 名
一般部貳段	バンディンセン(藤 枝)	参 段	新井 翔太(焼将陽)	合格者 18 名

第 13 回 JKS 西部地区空手道大会



平成 24 年 12 月 16 日(日)、第 13 回静岡県西部地区空手道大会が開催されました。約 110 名の選手が参加した本大会は、午前の部：団体・個人型、午後の部：団体・個人組手の試合が行われました。開会式前には、体育館に参加選手の元気な声が響き、試合に対するやる気が十分に伝わってきました。特に、団体の型・組手は、各支部から選ばれた 3 人の選手が 1 チームとなり、それぞれの競技開始にふさわしい、見ごたえのあるものでした。小さな体で力一杯頑張っている幼年から、学年を経るごとに技もスピードも精練されていく小学生・中学生。迫力のある高校・一般と、どの選手も日頃の練習の成果を収めようと、力の限り試合に臨んでいました。個人的に印象的だったのは、一般女子・子供たちのお母さん世代の試合参加が増えたことです。子どもと同じ時間を共有して練習に打ち込み、同じ目標に向かっていくことができることは、素晴らしいと思います。そして、老若男女を問わず、どの年代からでも始められるスポーツである空手の魅力を改めて感じました。閉会式では、緊張感から放たれ、力一杯競技できた充足感に満ち、どの選手もとても良い表情をしていました。表彰された選手も、負けて悔しい思いをした選手も、同年代の選手と競い合う中で様々な事を感じたことと思います。今後のそれぞれの目標に向けて、より一層の練習の励みとなることを期待します。今日は子供から大人まで、躍動感あふれる熱気のコもった試合に、応援する側も力が入る、熱くなる 1 日でした。本日の大会が無事に行われましたことを心より感謝致します。本大会に御尽力いただきました先生方、そして大会開催中のコート係・本部係り等、全面的にサポートして下さった「菊川南陵高校野球部」の皆さん、ありがとうございました。(レポート：浜松将陽館 赤羽)

選手が 1 チームとなり、それぞれの競技開始にふさわしい、見ごたえのあるものでした。小さな体で力一杯頑張っている幼年から、学年を経るごとに技もスピードも精練されていく小学生・中学生。迫力のある高校・一般と、どの選手も日頃の練習の成果を収めようと、力の限り試合に臨んでいました。個人的に印象的だったのは、一般女子・子供たちのお母さん世代の試合参加が増えたことです。子どもと同じ時間を共有して練習に打ち込み、同じ目標に向かっていくことができることは、素晴らしいと思います。そして、老若男女を問わず、どの年代からでも始められるスポーツである空手の魅力を改めて感じました。閉会式では、緊張感から放たれ、力一杯競技できた充足感に満ち、どの選手もとても良い表情をしていました。表彰された選手も、負けて悔しい思いをした選手も、同年代の選手と競い合う中で様々な事を感じたことと思います。今後のそれぞれの目標に向けて、より一層の練習の励みとなることを期待します。今日は子供から大人まで、躍動感あふれる熱気のコもった試合に、応援する側も力が入る、熱くなる 1 日でした。本日の大会が無事に行われましたことを心より感謝致します。本大会に御尽力いただきました先生方、そして大会開催中のコート係・本部係り等、全面的にサポートして下さった「菊川南陵高校野球部」の皆さん、ありがとうございました。(レポート：浜松将陽館 赤羽)

清水スポーツ少年団第 37 回空手道大会



12 月 9 日、清水空手道スポーツ少年団大会が開催されました。毎年恒例のこの大会は、麻機支部と合同で行われました。個人戦だけでなく、団体戦や親子、兄弟・姉妹型の演武もありました。参加者は日々の稽古を共に励む仲間だけなので、和気あいあいとした雰囲気でありましたが、その中でも、初めて試合や演武に参加したり、学年や性別などの関係で普段ではあたることのない選手との試合を控えていたり緊張する選手も多く見られました。団体戦に向けて上級生がチームリーダーとなって下級生をまとめて一緒に練習するなど普段見られない姿もありました。本番では緊張を見せないくらいに堂々と試合に取り組んでいたり、難しい型に挑戦して達成感に満ちた表情を見せたりしていました。中には試合に負けて悔し涙を見せる選手もいました。仲間内の大会だからこそ、あるいは、仲間内の大会なのにできたこと、その両方があったと思います。全員がもらった賞状はそれを讃えるものだと思います。選手のみなさんはこの大会でどんなことを感じたのでしょうか。私は今回審判員として参加しました。試合を見るにあたって普段の選手目線とは違い、普段気づかない良い点、改善点を見つけることや、点数や勝敗をつける酷な部分、選手を評価するには自分はまだまだ未熟であることを知ることができました。小さい大会だからと言って気を抜くのではなく、どんな大会でも全力で取り組み、自分の力量を振り返ることが大切だと改めて感じました。1 年のまとめとなるこの大会で選手各々が日々の稽古の成果を発揮することができたと思います。また、仲間の強さを実感したり、自分の課題を見つけたりして次年も稽古を頑張る機会にもなったと思います。(レポート：清水支部烈士館 三浦 夢穂)

中には試合に負けて悔し涙を見せる選手もいました。仲間内の大会だからこそ、あるいは、仲間内の大会なのにできたこと、その両方があったと思います。全員がもらった賞状はそれを讃えるものだと思います。選手のみなさんはこの大会でどんなことを感じたのでしょうか。私は今回審判員として参加しました。試合を見るにあたって普段の選手目線とは違い、普段気づかない良い点、改善点を見つけることや、点数や勝敗をつける酷な部分、選手を評価するには自分はまだまだ未熟であることを知ることができました。小さい大会だからと言って気を抜くのではなく、どんな大会でも全力で取り組み、自分の力量を振り返ることが大切だと改めて感じました。1 年のまとめとなるこの大会で選手各々が日々の稽古の成果を発揮することができたと思います。また、仲間の強さを実感したり、自分の課題を見つけたりして次年も稽古を頑張る機会にもなったと思います。(レポート：清水支部烈士館 三浦 夢穂)